

平成28年度 公益財団法人 和歌山県栽培漁業協会事業計画

1 基本方針

本県地先海域における水産資源の維持増大を図るため、有用魚介類の種苗生産等を行い、放流等により栽培漁業を推進し、もって沿岸漁業の生産の向上に努める。

2 事業計画

(1) 種苗生産等事業

県の委託を受け放流等に供するため、次のとおり種苗生産を行う。

種類	計画数量	技術開発計画
マダイ	300千尾(30mm)	(種苗生産) 天然魚から健全な親魚を養成し、良質卵の確保を図るとともに、一層の生産コストの軽減を図りながら、活力のある種苗を安定的に生産する技術の確立を目指す。
ヒラメ	400千尾(30mm)	(種苗生産) 一層の生産コストの軽減を図りながら、活力のある種苗をより安定的に生産する技術の確立を目指す。
イサキ	325千尾(20mm)	(種苗生産) 天然魚から健全な親魚を養成し、良質卵の確保を図るとともに、一層の生産コストの軽減を図りながら、活力のある種苗を安定的に生産する技術の確立を目指す。
クエ	50千尾(30mm)	(種苗生産) 形態異常魚の発現防止に努め、安定した種苗生産技術の確立を目指す。また、VNN防除のため、配偶子洗浄技術を向上させ、防疫の徹底を図る。 (中間育成) より安定的に生産する技術の確立を目指す。
カサゴ	100千尾(20mm)	(種苗生産) 天然魚から健全な親魚を養成し、良質な仔魚の確保を図るとともに、種苗生産技術の確立を目指す。 (中間育成) 安定的に生産する技術の確立を目指す。
アワビ類	366千個(25mm)	(種苗生産・中間育成) ・クロアワビ、メガイアワビ、トコブシ 付着板飼育時における最適な餌料珪藻を確保するため、照度調節方法等を見直す。また、収容密度、給餌方法等を再検討し、活力のある種苗をより安定して生産する技術の確立を目指す。なお、付着珪藻が不足した場合の代替餌料として塩蔵ワカメおよび微粒子配合飼料の使用を検討する。

※ センター別生産計画

(単位:千尾・千個)

	マダイ	ヒラメ	イサキ	カサゴ	クエ	アワビ類
北部センター	300		325			266
南部センター		400		100	50	100
計	300	400	325	100	50	366

(2) 種苗生産技術開発事業

(クエ)

開鰾率と飼育継続の可否に関するガイドラインを作成するため、昨年に引き続き県水産試験場と共同試験を実施する。

クエ種苗生産においては、鰾の形成時期と形態異常の発生率との関係を示すデータが不十分である。そのため、いつまでに鰾が形成されなければ、廃棄して採卵をやり直すべきなのかについて、はっきりした基準がない。そこで、飼育を継続するかどうかの判断を適正に行えるようにするため、開鰾率と形態異常魚の発生率等の検証を行う。

(3) 放流効果調査事業

(クエ)

標識放流したクエ（平成23・24年度に腹鰭抜去、平成27年度にダートタグ装着）について放流効果を検証していく。

(4) 普及啓発事業

一般県民に栽培漁業への理解を深めてもらう一環として、小学生を対象に体験放流や中学生の職場体験学習等の受入を行う。